

シセンムシクイとウンナムシクイは実は同物異名

孫悦華・華中霖

(中国科学院動物研究所)

訳 福井和二

シセンムシクイ (*phylloscopus sichuanensis*) はスエーデンの鳥類学者 Alstrom 等が 1992 年、我が国の四川省臥龍自然保護区で発見し、命名した新種である^[1]。当時、Alstrom 等は形態、鳴き声、生息地、繁殖営巣環境等の論証によりカラフトムシクイ (*P. proregulus*) と異なる新種で、発見された地名を付けてシセンムシクイと命名した。

しかしながら、これより早く 1922 年、ドイツの鳥類学者 La Touche が 1920 年 10 月、我が国の雲南省南部で 1 羽の雌の標本を採集し、カラフトムシクイの新亜種 (*P. p. yunnanensis*) として報告しており、その特徴は Alstrom の記述と完全に一致している^{[1], [2]}。同時に La Touche はさらに *P. p. yunnanensis* とカラフトムシクイの重要な識別個所として、次列風切羽の辺縁が全体に淡い緑色であるが、カラフトムシクイでは暗緑色であると指摘している。1926 年、La Touche は両者で次列風切羽の辺縁が暗緑色であるか、ないかの特徴は非常に顕著で、*P. p. yunnanensis* は独立種 *P. yunnanensis* として対処すべきであると初めて提示した^[3]。

2000 年ドイツの鳥類学者 Martens は *P. p. yunnanensis* の標本とカラフトムシクイおよび *P. sichuanensis* の標本を対比精査したところ、*P. sichuanensis* の標本と *P. p. yunnanensis* の標本は同一であることを発見し、ともに次列風切羽の辺縁暗色が無く、*P. sichuanensis* は 1922 年 La Touche が発表した *P. p. yunnanensis* であると立証した^[4]。Alstrom 等は、La Touche の *P. p. yunnanensis* とシセンムシクイの羽色を軽視してしまい、カラフトムシクイとシセンムシクイの風切羽の濃淡の区別に注意を払わず、彼らが発表したシセンムシクイなる新種 *P. sichuanensis* は事実上 *P. p. yunnanensis* と同物異名のものであり、国際動物命名法規に照して、いわゆる、*P. sichuanensis* は *P. yunnanensis* と同物異名である。最新出版の世界鳥類目録では、*P. sichuanensis* は採用せず、*P. yunnanensis* を採用している^[5]。したがって、文中ではウンナムシクイ *P. yunnanensis* とした。